

第10回

「玉川上水の歴史と自然を学ぶ」

平成18年（2006）

平成9年に始まり10年目を迎えた平成18年の第10回講座は、秋の集中講座として平日に5週間連続で行ないました。テーマは多摩の歴史を学ぶ上で欠かせない「玉川上水」。市民にとって身近な憩いの場所でもある玉川上水に関して、楽しく学ぶ講座となりました。

- | | | | |
|------|-----------|--------------------------|----|
| □第1講 | 9月20日(水) | 玉川上水 歴史と技術—常識への疑問— | 94 |
| | | 講師 肥留間 博 (クオリ) | |
| □第2講 | 9月27日(水) | 玉川上水の桜 その景観変遷 | 96 |
| | | —名所から名勝そして史跡へ— | |
| | | 講師 伊藤 富治夫 (小金井市教育委員会) | |
| □第3講 | 10月4日(水) | 見学会：玉川上水の現状を訪ねて | 97 |
| | | 講師 小平市玉川上水を守る会 | |
| | | (庄司 徳治・織田 雅雄・矢崎 功) | |
| □第4講 | 10月11日(水) | 羽村発～新田経由～大木戸行 | 98 |
| | | —玉川上水で結ばれた村と都市— | |
| | | 講師 天野 宏司 (駿河台大学講師) | |
| □第5講 | 10月18日(水) | パネルディスカッション「玉川上水の明日を考える」 | 99 |
| | | 講師 肥留間 博 (クオリ) | |
| | | 伊藤 富治夫 (小金井市教育委員会) | |
| | | 鈴木 浩三 (東京都水道局) | |

定員 120名

場所 国分寺労政会館（第3講は見学会）



絵はがき「武州小金井の櫻（小金井橋）」（たましん地域文化財団蔵）

第1講 玉川上水 歴史と技術

—常識への疑問—

肥留間 博 (クオリ)

1 玉川上水とは

①玉川上水はどこからどこまで？

「玉川上水」は江戸市内給水域も含めた名称。羽村－四谷大木戸をいうのではない。

②羽村－江戸13里

江戸は四谷大木戸のことではなく、まだ確定出来ない。『新編武蔵風土記稿』の記述は要注意。

2 開削伝承は虚構

「上水記」は玉川家の言い分で裏付けはない。「上水起元」失敗・安松関与・野火止用水恩賞は幕府からの流説を伝承か。工事費用は官民共同出資と考える。測量技術は高い。

①根本史料は依然欠如

②工事費用の食い違い

③2度の失敗説は否定へ

* 同時代記録『榎本弥左衛門覚書』（東洋文庫695 平凡社）

* 川越藩松平家家臣安松金右衛門の関与→野火止用水は恩賞という伝承は虚構

3. 新田開発への寄与

①古村〈田用水〉と新田〈呑用水〉

新田開発だけを言うのでは足りない。

②古新田と武蔵野新田（南北武蔵野82か村）…玉川上水分水表参照

4 江戸市中でのしくみと機能

①多機能だった玉川上水

上水道＝飲料水は当たらない、防火用水ほか環境用水のはたらきが大。

②多彩な樋柵の上水布設技術

一般の旅行ガイドには皆無。遺物の研究と主要な地点における顕彰が必要。

③江戸城での上水井戸は非常用、主要用途は庭園用水

5 明治初年の通船 発端と鉄道への転換

①江戸時代の通船計画

慶応3年は目論見書。出願ではない。

②慶応3年に幕府が提唱

羽村にたまった砂利を四谷まで下げ、市内の道路造成に活用。運搬の嚆矢。

③明治の通船は砂利下げ御用の見返り事業。慶応3年大政奉還後の事業で、普請方担当者も新政府に雇用。

④再興運動は鉄道敷設へ

明治16年まで再興をめざすも、八王子までの馬車鉄道。これは上水端を通る計画ではない。ついで甲武鉄道開設に。

玉川上水分水表

◎ 2006.9 肥留間博

| 上水記：寛政3(1791)編 | | | 利用 する 武蔵 野新 田の 数 | 水 料 | | 大 名 旗 本 領 | 備 考 |
|-----------------------|-----------------------|--------|---------------------------------|---------|-------|-----------------------|-------------|
| 上水図 記載 享保3(1718)以前 | 太字：武蔵野新田 (享保～元文年間) | 金：両.分 | | 米：石.斗.升 | | | |
| 1 | 拝島村* | | 4 | 1 | | | *宿場整備 |
| 2 | | 殿が谷新田 | 4 | | | | |
| 3 | | 柴崎村 | 1 | | | | |
| 4 | 砂川村 | | | 1 | | | |
| 5 | 野火止村* | | | | | ● | *はじめ川越藩松平家 |
| 6 | | 平兵衛新田 | 5 | | | | |
| 7 | | 中藤新田 | 1 | | | | |
| 8 | 小川新田(村) | | * | 1 | | | *流末小川新田→前沢へ |
| 9 | | 榎戸新田 | 3 | | | | |
| 10 | | 鈴木新田 | 4 | | | | |
| 11 | 国分寺村 | | | | 1.5 | | |
| 12 | | 大沼田新田* | 1 | | | | *流末田用水 |
| 13 | | 野中新田 | 3 | | | | |
| 14 | 田無村* | | | 1 | | | *宿場整備 |
| 15 | | 鈴木新田* | 1 | | | | *田用水 |
| 16 | | 関野新田 | 8 | | | | |
| 17 | (下)小金井村* | | | 1 | 1.0.8 | | *古新田開発があったか |
| 18 | | 下小金井新田 | 1 | | 5.4* | | *上小金井村分 |
| 19 | | 梶野新田 | 7* | | | | *流末井口・野崎新田か |
| 20 | 千川上水(用水) | | | 4.1* | | | *田用水ながら金納 |
| 21 | 境新田(村) | | | 1 | | | |
| 22 | はじめ仙川用水* | | | | | ● | *上仙川村柴田家 |
| | + (細川家)* | | | | | ○ | *現品川区豊町 |
| | 品川用水+仙川用水 | | | | | | |
| 23 | | 牟礼村 | | | 3.0.4 | | |
| 24 | 鳥山村* | | | | 7.2 | ◎ | *幕府領+旗本相給地 |
| 25 | (上)北沢村* | | | | 4 | ● | *中根家 |
| | | | | | 2* | | *代田村分 |
| 26 | | 下高井戸村 | | | 6.8余 | | |
| 27 | | 幡が谷村 | | | 3.7 | | |
| 28 | 三田上水(用水) | | | | | | |
| | (細川家)* | | | | | ○ | *現港区高輪 |
| 29 | 神田上水助水 | | | | 8* | | *淀橋水車利用税 |
| 30 | | 原宿村 | | | 6.9余 | | |
| 31 | | (戸田家惣) | | | | ○ | |
| 32 | | (内藤家) | | | | ○ | |
| 33 | | (田安家) | | | | ○ | |
| | 青山上水 | | | | | | |

渡辺紀彦『代官川崎平右衛門の事績』つばさ企画(1988)

宮岡和紀「千人同心往還拝島宿の成立」[『多摩のあゆみ』94 たましん地域文化財団(1999)]

玉川上水分水表 (肥留間博氏作成)

平成18年9月27日 午後2時～4時

第2講 玉川上水の桜 その景観変遷

—名所から名勝そして史跡へ—

伊藤 富治夫（小金井市教育委員会）

1 はじめに

①現在の玉川上水の地域区分

- * 上流域：羽村取水堰～小平監視所…水道原水導水路区間（約12km）
- * 中流域：小平監視所～浅間橋…下水処理水排水路区間（約18km）
- * 下流域：浅間橋～四谷大木戸…暗渠排水路（一部開渠）区間（約13km）

②玉川上水の歴史的価値（意義）

- * 近世（江戸）～近代（東京）の水道施設としての土木史的価値
- * 武蔵野台地の灌漑（田用水）・水道（呑用水）・通船施設としての歴史的価値
- * 桜の名所・名勝としての歴史的景観及び文化史的価値
- * 都市空間に残った貴重な水と緑の生活環境としての価値

2 「小金井」の景観変遷

①「小金井」とは「玉川上水」のこと

②「小金井」の景観

黎明期：玉川上水以前（歌枕武蔵野の原）

I 期：1653～1736年頃…玉川上水の開鑿から武蔵野新田の成立まで

II 期：1737～1780年代…桜並木の造成期

III 期：1790年代～1840年代…江戸近郊名所「小金井」の成立期

IV 期：1850年代～1880年代…大規模補植による名所景観修復期

V 期：1889～1930年代…甲武鉄道開通による東京近郊の行楽地化期。天然記念物保護運動と名勝「小金井（桜）」指定へ

VI 期：1940年代～1960年代前半…戦中の荒廃から戦後の花見復活期

VII 期：1960年代後半～1980年代…玉川上水の機能停止や都市化による景観変貌期、「失われた20年」

VIII 期：1990年代～現在…歴史的環境・名勝の見直しと「史跡玉川上水」指定へ

3 史跡・名勝景観の保全と復元整備

①衰亡した名勝景観の再生に向けて史跡名勝の復元整備

②受け継がれる桜守の精神
歴史に学ぶ保護意識の醸成と継承

参考文献

馬場憲一編『歴史的環境の形成と地域づくり』
名著出版 2005年

平成18年10月4日 午後1時～4時

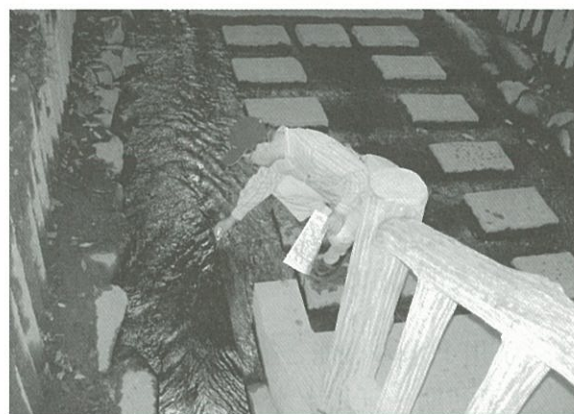
第3講 見学会：玉川上水の現状を訪ねて

小平市玉川上水を守る会（庄司 徳治・織田 雅雄・矢崎 功）

第3講は見学会となりました。見学行程は下記です。
玉川上水駅南口－小平監視所－小川橋－久右衛門橋－小平中央公園－桜橋－一橋学園駅



玉川上水駅



上水を流れる水の温度を測る



新田の景観



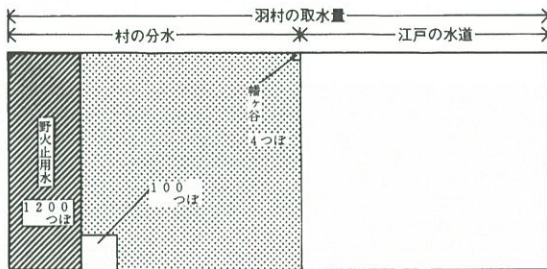
清水水車払い堀の堰跡

第4講 羽村発～新田経由～大木戸行

— 玉川上水で結ばれた村と都市 —

天野 宏司（駿河台大学講師）

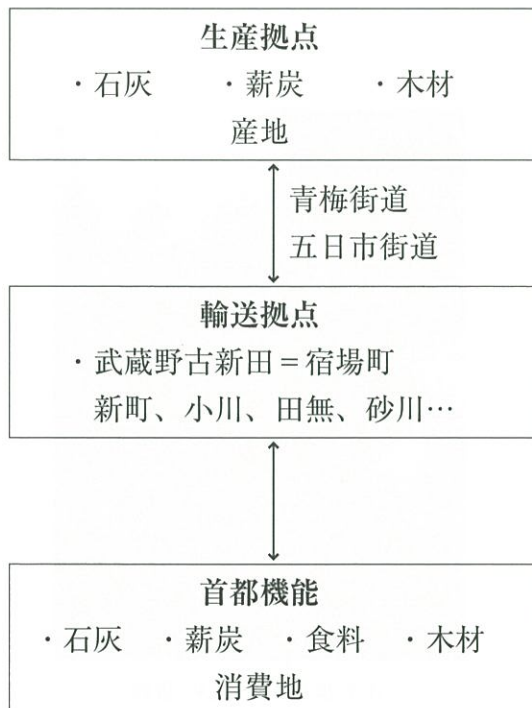
1 はじめに—江戸と武蔵野—



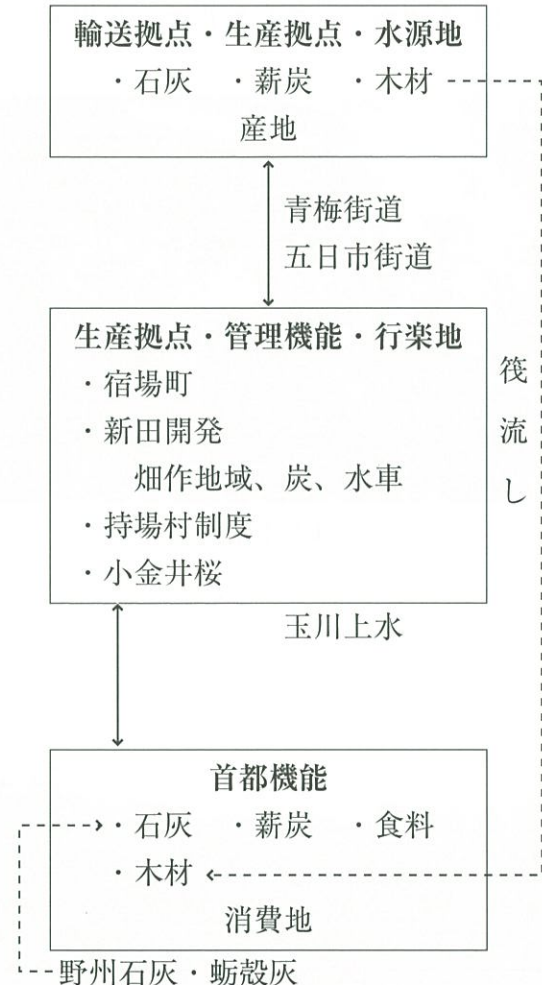
取水量配分の内訳（肥留間博『玉川上水』たましん地域文化財団より）

2 玉川上水の機能と維持管理

〈江戸初期～玉川上水開削〉



〈玉川上水開削後～通船以前〉



3 玉川上水の近代化

近代における新しい玉川上水の水利用

①通船事業による貨客輸送

* 通船計画の経緯

- ・元文・明和・慶応年間…不許可
- ・明治3年（1870）4月15日～5年5月31日実施

* 荷上場・納屋の機能

* 通船事業の停止

②水汲場の設置

* 水汲場の起源

「一 土手ヲ切下水汲場ヲ補理… (後略)」(「里正日誌」明治3年2月の高札写)

明治12年(1879)1月:第1号観察交付(東京都公文書館所蔵「庶政要録」〈文書番号617.C7.15〉による)

明治12年6月11日:廃止布達

コレラの流行(「東京府へ御添翰按租第七十六号…」(埼玉県行政文書〈文書番号 明3709〉による))

③個人利用を目的とした分水の開削

* 分水口改正:明治3年(1870)3月27日東京府土木局「分水口改正」の布達→明治4年再見直し

* 隠水防止(東京への水量確保)

* 荷船の通行障害を減らす(通船事業)

* 新しい分水

海軍火薬庫、植物御苑、鉄道院新宿駅、砂川源五右衛門(開削経緯不詳)、福生分水(田村半十郎呼井)

・福生分水:寛政3年(1791)、文化5年(1808)に福生村から分水願い提出→不許可(慶応3年(1867)「田村十兵衛呼井一件」新宿区立

新宿歴史博物館所蔵指田家文書
(文書番号E16))

* 熊川分水:既存の分水から取水権を買い取り開削(分水権1坪あたり100円、75坪で7500円を拠出・工事費を含め10,576.87円の拠出)

* 近代動力と水車

・森田(浪吉)製糸:蒸気機関へと転換・自家発電計画

・石川酒造:自家発電のタービンの動力源として熊川分水を利用→大正末期に水量低下から供給電力へ

4 近代水道と玉川上水

* 近代水道の整備

→淀橋浄水場(明治31年(1898))

→村山貯水池への通水(大正13年(1924))→境浄水場へ

→東村山浄水場(昭和35年(1960))
…清流消失→清流復活(昭和61年(1986))

→小河内ダム完成(昭和32年(1957))

参考文献

『多摩のあゆみ』第10号 特集「20世紀の多摩」たましん地域文化財団 2000年

平成18年10月18日 午後2時~4時

第5講 玉川上水の明日を考える

—パネルディスカッション—

肥留間 博(クオリ)

伊藤 富治夫(小金井市教育委員会)

鈴木 浩三(東京都水道局)

1 肥留間報告

* 第1講では、現在玉川上水の歴史の常識への疑問を提起。

* 小学校4年生の地域学習用副読本での「玉川上水」の記述の間違い

* 国指定史跡

* 案内解説類の不統一

* 史跡整備

* 周辺関連地:新田地割の存続 水車

2 伊藤報告「玉川上水と小金井の桜— 景観の再生・復元に向けて—」

1. 名所から名勝へ
2. 名勝小金井（桜）の意義（指定当時）
3. 名勝景観衰亡の原因
4. 史跡玉川上水・名勝小金井（サクラ）
の景観再生に向けて

3 鈴木報告「水道事業の継続のための コーポレートガバナンス」

- * 江戸・東京水道の400年間の継続は、
利用者の自治的な意志と公（おおやけ）
による経営で実現すべき
- * 江戸の直接の市制を担当していたのは
町人組織（町年寄・名主・家主）。す
なわち官・民の間に「公」という組織
があり、そこが経営していたといえる。
- * 上水組合：配水区域の武家屋敷や町人
（地主）が結成。武家方の上水も町方
で処理。上水は水銀・普請金などの取
入からの独立採算で行う。
- * いかに使っている人の意見を水道の経
営に反映させるか？

〈史跡玉川上水保存管理計画書中間報告〉

- * 目的：史跡「玉川上水」を適切に保存
管理し、価値を後世に継承してゆくと
ともに、多くの市民が理解し、活用で
きるよう、保存管理の方針や方法、整
備活用の方向性を明らかにする。

4 討議

* 「小金井桜」といった文化が地元はどう
影響したのか？江戸の市内の文化だけな
のか。地域との交流もあるのか。

伊藤 直接的には残っていない。ただ文
人たちと府中六所宮宮司家の沢渡家、小
金井橋際の柏屋など交流はある。

* 鈴木氏報告の「公」とは何か？

鈴木 いま、官・民というが、その間を
埋めるもの。制度の上でも戦前まで存在。
業界団体、同業組合、問屋・株仲間、酒
屋組合も公。玉川上水の経営の場合も、
上水組合の意味が大きかったといえる。

* 玉川上水の研究を進め、広めるために何
が必要か？

肥留間 大学で玉川上水を研究し、学会
で発表する研究者が少なく、研究が深ま
らない。玉川上水の研究を吸い上げ、発
信する行政によるインフォメーションセ
ンターが必要。

鈴木 玉川上水を取り上げる上でも、見
せ方を考える必要がある。土木工学、経
営等様々な切り口で「こういうこともあ
るのか？」というような、問題意識の見
せ方も重要。

5 おわりに

鈴木 水道局としての情報発信の重要性
は私も思う。

伊藤 この保存管理計画で、文化財とし
て活用する修景計画、それを行ういい機
会が来ていると考えている。

肥留間 玉川上水についてこれからも問
題提起していきたい。また、皆さんにも
もっと玉川上水について、学んでいただ
きたい。